

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 大蔵 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	話す・聞く能力や、読む能力に関して、正答率の高い傾向が見られる。その一方で、書く能力がわずかながら全国の平均正答率よりも低い。全体的には全国よりも高い正答率である。
	よくできた問題	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く問題がよくできていた。
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字「せつ極的」の正答率が低かった。
国語B	全体的な傾向や特徴など	話す・聞く能力や、書く能力に関して、全国の平均正答率よりも高い傾向が見られる。全体的に全国よりも高い正答率である。
	よくできた問題	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題がよくできている。
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読む問題の正答率が低い。
算数A	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率よりも高い。中でも、領域では「数と計算」や「図形」が高く、能力面では数量や図形についての知識・理解に関して、高い傾向が見られる。
	よくできた問題	1にあたる大きさを求める問題で除数が小数である場合でも除法を用いることや、円周率の意味をよく理解している。
	努力が必要な問題	単位量あたりの大きさを求める除法の式と小の意味を理解したり、180°よりも大きい角の大きさを求めたりする問題の正答率が低い。
算数B	全体的な傾向や特徴など	全体的に、平均正答率が全国よりも大きく上回っている。特に、「数と計算」、「量と測定」、「数量関係」の領域での正答率が高い傾向にある。また、能力面では数学的な考え方の能力が高い一方で、数量や図形についての知識・理解の能力が、全国よりもわずかに低い。
	よくできた問題	示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断する問題がよくできている。
	努力が必要な問題	図に表された内容の規則性を解釈し、それをもとに条件に合う色を判断する問題の正答率が低い。
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国の平均正答率よりも高い。特に、科学的な思考・表現における能力が高い傾向が見られる。一方で、自然事象についての知識・理解の能力がわずかながら全国よりも低い。
	よくできた問題	調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析する問題がよくできていた。
	努力が必要な問題	人の腕が曲がるしくみを模型に適用して説明する問題での正答率が低かった。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>○学校でのきまりを守り、すべての子どもが「いじめはどんな理由があってもいけないこと」という意識をもっている。</p> <p>○家では、毎日同じくらいの時刻に起きたり寝たりしている子どもが多い。</p> <p>○家での学習面では、自分で計画を立てて勉強をしたり、家で学校の授業の予習・復習をしたりする子どもが多く、80%の子どもが1日あたり1時間以上家庭学習をしている。</p> <p>○福岡県全体や全国の集計に比べて、本校は地域とのかかわりが顕著に高く、地域のことを調べたり地域の人々とかかわったりする機会が多い。そして、地域の行事やボランティア活動に参加し、地域や社会をよくするためになをすべきかを考える子どもが多い。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

読書の機会を増やしたり、学力補充の時間での「音読タイム」「パワボタイム」のような「声に出してひたすら読む」活動を充実させたりすることで、読解力を高めていきたい。それによって、国語の読む能力をはじめ、様々な教科での問題の読み取りや、資料を読んで調べる活動などに生かせるようにしたい。

② 家庭生活習慣等に関する取組

地域との結びつきを大切にするため、あいさつの励行に努める。また、家庭学習をさらに推進し、その方法や具体的な学習の内容を、通信や学校ホームページなどを活用して広報して、保護者にも啓発していきたい。